

第573回テキサス会「商工会会長杯」ゴルフトーナメント

11月13日(日)、第573回テキサス会ゴルフトーナメント「商工会会長杯」が、WindRose Golf Club(男性6,608ヤード、女性5,355ヤード、パー72)で開催されました。前回第572回大会からわずか2か月足らずでの開催となった今回は、早坂商工会会長、武智日本人会会長をお迎えし、総勢66名が出場。早朝は35°Fまで冷え込みましたがすばらしい晴天に恵まれ、開会式にて武智日本人会会長より、「気温は冷え込んでいますが旧交を温め親睦を深めましょう」とのお言葉を頂戴し、午前8時よりショットガンスタートで一斉にトーナメントを開始しました。午後2時頃には全参加者が大きなトラブルもなく無事にホールアウトできました。

昼食には恒例?のハンバーガーが提供されましたが、これが思いのほか美味!談笑が続く中始まった表彰式では、ドラコン・ニアピン賞、飛び賞、ブービー賞等の発表の後、いよいよ優勝者の発表。女性優勝を緒方様(グロス91、ネット75.4)、ベストグロス賞を門田様(グロス77、ネット72.2)、総合優勝・男性優勝を武智日本人会会長(グロス93、ネット71.4)が受賞されました。

最後に早坂会長から、「今回も親睦を深める良い機会となった」旨のお

言葉を頂戴し、商工会会長杯は盛況のうちに幕を閉じました。

今回も、日本人会および会員企業各社から数多くのご寄付を頂戴しましたこと、この場をお借りして、厚くお礼申し上げます。また、スムーズな大会運営にご協力頂きましたすべての皆様に、感謝申し上げます。

(機械・電子部会 Tadano America Corporation)



早坂会長から武智さんへの総合優勝トロフィー授与

(左から)ベストグロス賞/門田さん、総合優勝・男性優勝/武智さん、女性優勝/緒方さん



参加者の皆様

駐妻のヒューストン日記

第217回 河田 綾さん

皆様、ヒューストンでいかがお過ごしでしょうか? やっとコロナから解放されつつあり、日本よりも開放的な環境の中でアメリカの生活を楽めていますでしょうか? 私達家族はパンデミック前の2019年12月にヒューストンに赴任してまいりました。当初は夫、私、子供二人と猫だったのですが、今は天国に猫がおり、新しく末子が生まれております。今日はその一緒にアメリカに渡ってきた猫についてお話ししようと思います。渡ってきた逸話に少し運命的なものがありますので、最後まで読んでいただけたら幸いです。

猫の名前はジジ。皆様ご存じの「魔女の宅急便」からつけた名前です。当時アメリカで大学生をしており、英語の勉強になればとジブリのDVDを英語吹き替え&字幕で幾度となく見たものです。そんなジジを飼い始めた時、猫を飼うのが初めてだった私はまず獣医に連れて行き、獣医の勧め通りに避妊手術と、爪をとる手術をしました。Declawと呼ばれるその手術は日本ではまず受けられることはなく、アメリカでも今では残酷だとされ淘汰されているように思いますが、当時はさほど珍しいことではありませんでした。後に転勤族となった私には大変ありがたく、ペット禁止の賃貸物件でも、爪がないならと特例で入れてもらったり、赤ちゃんが生まれても引っかけられる心配もなく、私たち家族にとっては良い事づくめでした。ただ、室内猫として飼うことが原則であることを獣医に強く言われました。それは外の世界では、爪がないと喧嘩に必ず負けるからだそうです。勿論寄生虫や事故を防ぐためにも、アメリカの獣医には室内で一生涯飼うよう、勧められます。

猫の海外移動には、犬と同じルールが適用され、狂犬病の抗体価検査

が必要になります。そしてその検査から百八十日の待機期間を経て入国可となる国が多いのですが、検査に連れて行ったり、書類を作成したり、実際には半年以上かかります。近いうちの転勤が分かっている場合は、早めに検査を済ませておくと安心です。ただこの検査もずっと有効ではなく、期限がありますので転勤族ですと猫人生(?)のなかで何度も受ける事となります。また、旅行中にペットホテルに預ける場合は、この抗体価検査ではなく、狂犬病の予防接種が必要だったりします。ホテルによっては猫インフルの予防接種や数種混合を打ってください、と言われることもありました。海外の移動には貨物扱いでしか渡れない国もあり、その場合は猫でも片道二十万越えの料金を支払います。何が言いたいかというと、やはりペットを飼うにはお金も労力もかかるということ。安易な気持ちでは最期まで看取れません。しかし、生まれた時からジジがいた息子は動物が大好きで、優しい子に育ってくれたと思っています。

さて、最後になりますが、ジジの運命的な渡米についてです。学生の頃に飼い始めた最初にお話ししましたが、当時他州に住んでおり、テキサスの大学に留学していたお友達を訪ねて旅行中立ち寄ったスーパー前で、産まれた子猫を譲渡していたおばさまから頂きました。大学から他州へと就職で引っ越し、転職で日本へ。それから結婚し夫の海外転勤同行、日本に戻ったのちまたテキサスへの転勤。結果として何度も州、県、国を跨いだ猫となったのですが、最後の地はジジの生まれたテキサスとなった訳です。今回の渡米すぐに癌がみつかり看取りましたが、なんとかテキサスまで戻ってきたのかな、と思わされるようなタイミングでした。これから続く子供三人とのテキサス生活も、ジジがテキサスの空から見守っていてくれると思うと、心が温かくなり勇気づけられるのです。これからペットを飼いたいと思っている読者の方にも、たくさんのいい影響を貰える、良い出会いがありますように。

